

Choice for FDI and Post-FDI Productivity (海外展開の選択とその後の生産性変化)

伊藤由希子

要約

本稿では、サービス産業と製造業がそれぞれ海外進出を選択する要因や、海外進出後の生産性の変化がどのように異なるかを分析する。まず、それぞれの部門において全要素生産性（TFP）の高さが企業の海外進出に有意な要因となるかを分析する。さらに、海外進出企業が海外展開を通じた生産性の上昇を得られているかどうかを検証する。この際、その生産性が、もし海外進出を行っていなかったとしても得られたであろう生産性の変化と比べて有意に高いかどうかをも合わせて考慮する。本稿の分析では上記の 2 点において、サービス産業の企業と製造業の企業との間の違いが確認できた。海外展開の選択において、サービス産業では高い生産性を既に持っていることが進出要因となり、製造業では生産性よりも、大きな事業規模を持っていることが進出要因となっている。また、海外進出後の生産性については、サービス産業は製造業に比べて生産性の成長率が高いことが分かった。またサービス産業では、海外展開を通じて、もしそれがなかったとしても得られていたであろう成長率よりも有意に高い成長率が確認できた。